

総務省国立研究開発法人審議会（第15回）

1 日 時 令和4年8月5日（金）17時00分～18時00分

2 場 所 WEB会議にて開催

3 出席者

（1）委員（敬称略）

尾家委員（会長）、梅比良委員（会長代理）、
大場委員、尾辻委員、知野委員、藤野委員
（以上6名）

（2）専門委員（敬称略）

入澤専門委員、牛尾専門委員、大森専門委員、生越専門委員、小野専門委員、
小塚専門委員、小紫専門委員、篠永専門委員、末松専門委員、橋本専門委員、
藤本専門委員、前原専門委員、村瀬専門委員、森井専門委員、矢入専門委員
（以上15名）

（3）総務省

田原国際戦略局長、内藤官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）、
大森国際戦略課長、川野技術政策課長、小川宇宙通信政策課長、
津幡技術政策課技術革新研究官、井出技術政策課革新的情報通信技術開発推進室長、
藪井技術政策課課長補佐、太田宇宙通信政策課課長補佐

4 議 題

（1）令和3年度における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価
について

（2）令和3年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する
評価について

（3）その他

開 会

【尾家会長】 皆さん、こんにちは。ただいまから第15回総務省国立研究開発法人審議会を開催いたします。

本日は御多忙のところ御参集いただきまして、ありがとうございます。暑い日が続きますが、今日もウェブ形式での開催となりました。

初めに、本日の会議の定足数の関係でございますが、委員6名中6名が出席されており、定足数を満たしておりますことを御報告いたします。また、専門委員の皆様にも御出席いただいております。ありがとうございます。

では、まず開催に先立ちまして、田原国際戦略局長に御挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【田原局長】 尾家会長、ありがとうございます。

本日は、尾家会長はじめ委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、御参集いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より情報通信行政に御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

開会に当たり、一言御挨拶をさせていただければと思います。

本日は、総務省が所管しております2つの国立研究開発法人、NICT及びJAXAの令和3年度の業務実績評価について御審議いただく予定となっております。

国立研究開発法人でありますNICT及びJAXAは、一定の自主性・自立性を発揮しながら、国が定める業務運営の目標である中長期目標を達成するため、自ら作成した中長期計画に基づいて適正に業務を進め、研究開発成果の最大化を図ることが第一の目的とされているところでございます。

両法人においては、先進的な研究開発を推進しながら、得られた成果を着実に社会へと展開・実装していくことが強く期待されているところでございます。

両法人のPDCAサイクルをしっかりと回していくためにも、本日は活発に御議論いただきまして、忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。委員並びに専門委員の皆様方の御協力、御指導方、よろしくお願いいたします。

私からの挨拶は以上でございます。本日、よろしくお願いいたします。

【尾家会長】 田原国際戦略局長、ありがとうございます。

本日は1年ぶりの審議会となります。会の構成は参考国研15-9のとおりでございます。

ます。

なお、総務省側で異動があったということですので、事務局より総務省の人事異動の御紹介とともに、添付資料の説明をお願いいたします。

【藪井課長補佐】 ありがとうございます。事務局の藪井でございます。

それでは、この夏変更がございました総務省側の新体制について、各部会では既に一部お知らせしておりますが、改めて御紹介させていただき、一言ずつ御挨拶を申し上げたいと思います。

それでは、まずは内藤国際戦略局審議官でございます。

【内藤審議官】 6月28日付で国際戦略局担当の審議官になりました内藤でございます。委員の先生方には、日頃大変お世話になっております。

サイバーセキュリティ、それから、今日議題となっておりますけれども、研究開発を担当してまいります。御指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【藪井課長補佐】 続きまして、川野技術政策課長でございます。

【川野課長】 御紹介いただきました、技術政策課長の川野でございます。

N I C T情報通信研究機構を担当する課の責任者でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【藪井課長補佐】 小川宇宙通信政策課長でございます。

【小川課長】 宇宙通信政策課長を拝命しております、小川でございます。

当課ではJ A X Aを所管しております。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【藪井課長補佐】 津幡技術革新研究官でございます。

【津幡研究官】 7月1日付で着任しました津幡と申します。N I C Tを担当しております。よろしくお願い申し上げます。

【藪井課長補佐】 井出革新的情報通信技術開発推進室長でございます。

【井出室長】 井出と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【藪井課長補佐】 そして、大森国際戦略課長は引き続きとなります。

【大森課長】 大森でございます。私は引き続き国際戦略課長でございますので、引き続き御指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

【藪井課長補佐】 以上となります。事務局のほうも続けて務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。委員の皆様には、事前に電子

ファイルでお送りさせていただいております。また傍聴の皆様方には、事前にダウンロードのためのアドレスをお送りしております。

ファイルナンバー00が議事次第と配付資料の一覧、01及び02が本日御審議いただく資料で、01の資料国研15-1がNICTに関する資料、15-2がJAXAに関する資料です。また、03から11までが参考資料、そして99が出席者一覧の、計13点となっております。

資料については都度画面に投影させていただきますが、お手元のファイルに破損等ございましたら、事務局までお知らせください。

また、本日はウェブ会議形式での開催となっておりますので、御質問、御意見をいただく際は、画面下右側にございます手のひらのマーク、挙手ボタンでお知らせいただければと思います。

なお、本日は総務省国立研究開発法人審議会議事規則第7条に基づき、公開となっております。本日の議事録についても、後日ウェブサイトに掲載させていただきます。

事務局からは以上となります。

【尾家会長】 ありがとうございます。

それでは、お手元の議事次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。

本日、議題が2件ございます。

議 題

(1) 令和3年度における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について

【尾家会長】 まず最初、議題1です。令和3年度における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について、事務局より説明をお願いいたします。

【藪井課長補佐】 事務局でございます。それでは、早速ですが御説明申し上げます。

ファイル01の資料国研15-1を御覧ください。資料は二部構成となっております。

まず、概要の説明をさせていただきます。こちらで、令和3年度におけるNICTの業務実績に関する、NICTの自己評価に対する審議会の意見(案)の概要を御説明いたします。

続きまして、具体的な審議会としての意見の案につきまして、総合評価、そして項目別評価と、それぞれ御説明申し上げます。

まず表紙です。今年度は、第5期中長期計画の初年度に当たる、令和3年度の自己評価に対する御意見をお願いいたしました。御意見をいただくに当たり、委員の先生方には2つのお願いをいたしました。

1つ目は、NICTの業務実績に対する御評価です。NICTの業務実績を御確認いただき、自己評価が妥当かどうか、その判断の根拠が適切かどうかを、書面やヒアリングで見極めてくださいというものです。

そして2つ目が課題の抽出です。研究成果を最大化するためにアドバイスできることがないか、そして、中長期目標を達成するために障害となるような課題がないかどうか、専門家の視点からアドバイスをいただきたいというものです。

その結果、本年度の評価調書は、例年の倍以上のボリュームとなりました。短時間であったにもかかわらず、様々な視点での御評価と、数多くのアドバイスを頂戴しております。今回御説明するのは、そのうちのエッセンスであり、ほんの僅かなものとなりますが、いただきました御指摘・アドバイスにつきましては、一つ残らず全て、個別にNICTにはお伝えしたいと考えております。本当に厳しくも温かい、たくさんのお言葉をありがとうございます。まずは、先生方に心からの感謝を申し上げたいと思います。

では、内容について御説明申し上げます。

おめくりいただきまして、1ページ、令和3年度におけるNICTの業務実績に関する評価に対する意見（案）の概要です。NICT部会において、自己評価の書面評価、5日間にわたるヒアリング、そして2回の活発な御審議をいただきました結果を、このとおり取りまとめました。

冒頭、全体の評定です。こちらはA。NICTの目的、業務、中長期目標等に照らし、総合的に勘案した結果、研究開発成果の最大化に向けて、顕著な成果の創出や、将来的な成果の創出の期待等が認められる、となります。

参考まで、右側に前中長期、第4期ですね、5か年の評定を掲載しておりますが、こちらもいずれもAでございました。

続いて評価の要旨です。こちら、3点記載しております。

1点目は、全体として大きな課題はなかったこと、そして、重要度の高い項目に関する項目別評定の大半が、顕著な成果、つまりAであったことが今回の評定につながったとい

うことを記載しております。

黒い四角の2点目は、項目別評定の内訳です。サイバーセキュリティ分野、そしてBeyond 5Gの推進の2つの項目においてS評定であり、また、その他4つの分野でA評定となっております。

Sとなったサイバーセキュリティ分野は、サイバー攻撃統合分析プラットフォームであるNIRVANA改が、オリンピック・パラリンピック組織委員会や、NISCのサイバーセキュリティ対処調整センターに導入されるといった、オリンピック・パラリンピックへの技術協力を実施したことが高く評価されるなど、複数の年度計画を超える顕著な実績が評価されました。

また、もう一つのS評定となったBeyond 5Gの推進は、Beyond 5G研究開発促進事業の本格開始初年度に当たり、効果的かつハイレベルな研究開発活動を進めるべく、案件形成、採択評価などの膨大な業務を短時間で実施して計44課題の具体的な委託研究開発活動を開始に導き、併せてこれら活動成果を最大化し、相乗効果を創出するために、プログラムディレクターや連携オフィサーの配置などの運営体制を準備しております。

さらに、次年度以降の活動へとつながる施策も実施し、取組サイクルを回すなど、公募型研究開発プログラムの適切な実施について、5年後、10年後の我が国全体の国際競争力強化を目的とした戦略的な取組が、特に顕著な成果として評価されております。

そして黒四角3点目は、その他の業務運営に係る3つの項目について、着実な業務の進捗が評価され、B評定となりました。

最後に、部会において出てまいりました主な意見です。ここには、NICTに今後フォローアップを要求すべき事項としていただいたものと、個別の項目に限らない、全般的なものとしていただいた御意見を取り上げております。

1点目は、人材育成や演習の成果などには、追跡評価を継続的にかけて確認しないと、なかなか定量的な評価には至らないという御指摘があったことを踏まえまして、フォローアップと見える化をすることによって、目的と効果を明確にしてほしいと要望しております。

また2点目からは、予算等の制約がある中でマネジメントが効果的になされていることを評価した上で、急な予算の増減に伴う弾力的な人材配置などが求められること、コロナ禍のために実施制限があった実験などについて、様子を見ながら手法など工夫した柔軟な対応が求められること、技術開発と基盤整備と社会実装という3つの軸については、

いずれも欠けてはならないという意識でバランスを取っていただきたいといった、中長期の達成に向けたアドバイスが中心となりました。

以上が、NICTへの総合評価案の概要です。

続きまして次のページは、項目別の評定について記載しております。おおむね、NICTの自己評価は妥当であるとの意見を頂戴しておりますが、特に2つの項目について議論となりましたので、御説明いたします。

1つ目がナンバー4、ユニバーサルコミュニケーション分野です。御覧のとおり、NICTの自己評価がS評定であるのに対し、部会の意見はAが妥当であるというものでした。

これはこちらに記載のとおり、中項目が3点、4.1、4.2、4.3とございますが、そのうちの一つ、真ん中の4.2、社会知コミュニケーション技術について、自動並列化深層学習ミドルウェアの開発・公開を行ったり、仮想人格の基礎的技術を開発し、複雑な対話の実現に向けての仮説生成、因果関係、文脈処理の組み込みが進行するなど、科学的意義においては非常に顕著な成果と評価できるものの、社会実装に向けては高齢者介護のフィールドにとどまったりと、Sと評価するにはより一層の社会的受容性が必要ではないかという判断となりました。

その結果、Aが2つ、Sが1つと考えられるので、全体としてもSではなく、Aが妥当なのではないかという意見となりました。

もう一つがナンバー6、Beyond 5Gの推進です。こちらは自己評価がS評定であり、部会の意見もSが妥当という結論になりましたが、そこに至るまでにかなり議論がございましたので、経緯を説明申し上げます。

Beyond 5Gの推進は、この令和3年度が初年度となる委託研究プログラムをメインとした項目です。皆様も御承知のとおり、研究開発は一朝一夕に成果が上がるものではないということから、初年度においてその成果をとると、非常に評価しにくいものとなります。このため、自己評価として提示されたS評定をどう解釈し、その妥当性をどう判断するかということが、担当委員の間でも議論となりました。

研究開発においても、目に見える成果ではない、定性的な成果を客観的に説明することは難しいものですが、最終的に委員の間で一致したのは、NICTが資金配分機関、ファンディングエージェンシーとして果たした役割に着目したとき、単純に大規模な補助事業を実施したということではなく、5年後、10年後の我が国の国際競争力強化を目的と

した、将来の日本全体の国際競争力獲得を見据えた戦略的な土台づくりを行った、そのために課題の選定・採択評価から知財獲得のための産学連携の体制整備に至るまでをホワイトペーパーに取りまとめるなどして概念形成を行ったという点において、NICTの実施した業務はS評価に該当するということでした。このため、事業の初年度にS評価がつくという、少々異例な状況となりましたが、自己評価どおりのSとなっております。

項目別の評価における議論の内容につきましては、以上となります。

次のページからは実際の意見書の案となります。

この3ページ及び4ページにつきましては、総合評価となります。

3ページでは、先ほど1ページで説明いたしました法人全体に対する評価の詳細を、個別の項目ごとに記載しております。

また4ページでは、先ほど審議会の主な意見として紹介いたしました内容の詳細を記載しております。

次の5ページ以降は、個別の項目についてナンバー1からナンバー10まで、それぞれの評価の評価に至った理由について、具体的に記載しております。

全部で16ページありますので詳細は割愛いたしますが、こちらについても、項目別の意見書とする予定となっております。

御説明は以上となります。NICTの令和3年度の業務の実績に関する評価に対する審議会の意見として、この案のとおりとしてよいか御裁定をいただきたく、また、こちら、4ページの主な意見の内容として、もし追加すべきコメントが審議会としてございましたら、併せて御教示いただければと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、御質問、御意見などがございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

梅比良先生、お願いいたします。

【梅比良会長代理】 梅比良でございます。どうも御説明ありがとうございました。

1点お伺いしたかったのは、4番目のところでユニバーサルコミュニケーション分野について、社会知コミュニケーション技術が社会受容性を満たしていることが更に必要だということでA評価となったという御説明がありました。

JAXAの部会でも、いわゆる社会実装というところをどのように評価するかという

のがなかなか難しく、どれだけ参加者が、使っている人がいるかとか、あるいは経済的な規模まで考えたほうがいいんじゃないかとか、いろいろな議論がございます。

ここについては、社会需要を満たしているというのは、もうちょっと具体的に、どういうところでまだ足りないというお話だったのか、お聞かせ願えればと思うんですけども、よろしく願いいたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。

本件に関しましては、これの検証というんですか、実証もなさっているんですが、かなり少ない数の人しか対象にできなかったということで、コロナ禍とはいってもその点がちょっと弱んじゃないかという意見だったと思いますが、何か付け加えることはございますでしょうか。

橋本先生、お願いいたします。

【橋本専門委員】 橋本でございます。今、尾家先生がおっしゃってくださったそのままなのですが、Aも非常にすばらしいという考えの下であり、今回は、今言っていたように件数が若干少なかったということで、次に対して更に期待をするという観点もあり、十分な成果という形で、Aという意味合いで考えさせていただいたという形です。

おっしゃられたように、社会実装をどう評価するかというのはすごく難しいことだと思うので、私もこの活動をしていていつも思うことなのですが、今回につきましては、そのようなことを議論させていただいたということになります。

以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。

梅比良委員、いかがでしょうか。

【梅比良会長代理】 どうもありがとうございます。今回は、実証実験をやっているが、そのときの参加数がそんなに多くなかったのも、そこまでちゃんと評価できていないだろうということでAにされたという、そういう理解でよろしいでしょうか。

【尾家会長】 はい、そういう状況だと思います。

【梅比良会長代理】 分かりました。どうもありがとうございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。

そのほか、何か御質問、御意見ございませんでしょうか。

藤野先生、お願いいたします。

【藤野委員】 藤野です。よろしくお願いいたします。

1 ページ目の評価書を拝見させていただきますと、人材育成という言葉が結構、そこかしこに出てくるという具合に、表紙の次のページにあると思うのですが、N I C Tにおける人材育成としては、基本的にはセキュリティの部分に多分一つあったかと思いき、後はI C T人材育成というところにあったかと思いき、そういう部分での人材育成という具合に、この審議会の主な意見の中でおっしゃっていると思ってよろしいのでしょうか。

【尾家会長】 ありがとうございます。

今御指摘のとおり、主にセキュリティ関連の人材育成にN I C Tが力を出していると思います。その他の件についても今御指摘のとおりだと思いますが、何か事務局、ありますか。

【藪井課長補佐】 事務局でございます。

こちら、人材育成のところに括弧して、「海外からの招へいを含む」と書かせていただいていますけれども、いわゆる招へい者に対する育成というのも含ませていただいているという意味合いで、特出しみたいに書いてしまっているんですけども、そういった招へいの人たちのことも含めて考えておりますということで書かせていただきました。

【藤野委員】 分かりました。

基本的にN I C Tさんの部分では人材育成って、結構項目ごとにばらばらになっておりますので、なるべく、何というか広い範囲で、例えば機構としての人材育成をどうするかとか、そういうところでもいろいろ見ていただけると、情報通信として必要な人材が満足できるようになるかと思いき、頑張っていただければと思います。

【尾家会長】 どうも、御指摘ありがとうございます。

そのほか、何か御意見、御質問ございませんでしょうか。

いかがでしょうか。

今回、N I C Tは、期の初め、初年度の評価に当たりましたので、先ほど説明がありましたように、この初年度で特に、運営とか管理運営辺りについての評価をどうすべきかというのは随分議論がありまして、まだ成果が出ていないという中で、取り組んだ内容が今後よい成果を見いだすと期待して、高い評価を付けているところです。

ですから、今後のいろいろな体制整備ですとか、そういったことを運用することによって本当に成果が出てくると思いき、部会としてはこの時点で、期待も含めて高い評

価になったと思いますので、今後、実際に成果が、顕著な成果が出てくることを期待しているという状況かと思えます。

何か御質問、御意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、もしないようでしたら、ひとまず令和3年度におけるN I C Tの業務実績評価に対する意見に関しては、案のとおり取りまとめたいと思えます。総務省におきましては、引き続き最終的な評価に向けた作業などをお願いいたしたいと思えます。

どうもありがとうございます。

(2) 令和3年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について

【尾家会長】 それでは続きまして議題2、令和3年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【小川課長】 J A X A部会の事務局を務めております、宇宙通信政策課長の小川でございます。

資料につきましては、国研15-2、令和3年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価に対する意見(案)について、でございます。また参考資料につきましては、参考国研15-5から15-8まででございます。併せて御参照いただければと思えます。

なお、J A X Aにつきましては、中長期目標の期間が平成30年度からの7年間となっておりまして、令和3年度につきましては4年目の評価ということでございます。

なお、本意見(案)の取りまとめに当たりましては、本審議会のJ A X A部会を含む4府省合同の審議会によるJ A X Aからのヒアリングを、7月4日・5日に実施をしております。その後、J A X A部会を7月20日に開催いたしまして御議論いただきまして、意見の取りまとめを行ったものでございます。取りまとめをいただきました梅比良部会長をはじめ、部会の皆様には改めて御礼を申し上げます。

J A X Aにつきましては、総務省に加えて内閣府、文部科学省、経済産業省の4府省の共管となっております。そのため、本日お取りまとめいただきます総務省の国立研究開発法人審議会の御意見に加えまして、各府省においても審議会からの御意見をいただいた

後、共管の4府省で協議の上、最終的に主務大臣としての評価を決定することとしておりますので、この点につきまして御了承いただければと思います。

それでは、資料を1ページおめくりいただきまして、御覧いただければと思います。

先ほどのNICTの意見(案)の資料には全体の評定という項目があったかと思いますが、JAXAの全体評定につきましては、共管の4府省で協議の上、決定することとしております。

各評価項目のうち、研究開発成果の最大化に直接係る項目について積極的に評価することとして、重みづけ等を行った上で総合的に評価することとしておりますので、この資料につきましては総合評定の欄がございません。ということで、各項目に対しての自己評価及びそれに対する部会の意見(案)ということをお示ししたものでございます。

それでは資料について御説明させていただきますが、1つ目の総括の部分を御覧いただければと思います。

JAXAの自己評定はおおむね妥当ということで、御意見を部会からいただいております。また、ここにお示ししている4項目については、自己評定とは異なる評定が妥当と、御意見をいただいているところでございます。

これらの自己評定と異なる評定が妥当とされた項目につきまして、2つ目の自己評価に対する主な意見(案)のところ、部会からいただいた御意見とともに御説明をさせていただきます。

まず1点目の衛星リモートセンシングにつきましては、JAXAの自己評定がSのところ、Aが妥当ではないかと御意見をいただいているところでございます。

その理由といたしましてALOS-2、これは陸域観測技術衛星第2号でございますけれども、これの利用面のエクストラサクセスの達成は、継続的な利用による成果の蓄積によるものであり、2021年度に特に顕著な成果があるとは考えられない。全体として、特に顕著な成果の創出や、将来的な特別な成果の創出の期待、これに相当するものが不明という意見をいただいているところでございます。

続きまして2点目の、ISS国際宇宙ステーションを含む地球低軌道活動でございます。こちらにつきましても、JAXAの自己評定がSのところ、Aが妥当ではないかという御意見をいただいているところでございます。

その理由といたしまして、ISS計画を通じた国際的なプレゼンスの維持向上に資する取組を着実に進めており、軌道上有償利用件数は過去最多件数を達成している点も評

価できるが、数だけではなく、質の評価が必要な段階になってきている。昨年度に比べて突出した成果とは言い難いといった意見をいただいているところでございます。

3点目のプロジェクトマネジメント及び安全・信頼性につきましては、JAXAの自己評価Aのところ、Bが妥当ではないかとの御意見をいただいているところでございます。

こちらにつきましては、人工衛星の不具合発生を減らしたことなど評価できる点も多いが、難航するH3の開発への対応など、具体的に進行している問題にどのように関わっているのかが不明である。昨年来の取組の延長であり、目標に対して着実な業務運営がなされているが、計画を上回る実績とは言い難いといった意見をいただいているところでございます。

最後の4点目でございますけれども、人事に関する事項につきましては、JAXAの自己評価Aのところ、Bが妥当ではないかとの意見をいただいているところでございます。

こちらにつきましては、柔軟な採用方法を取り入れ、働き方改革に積極的に取り組んでおり、一斉休憩の廃止など、時間と場所の制約が少ない働き方を可能にした点も評価できるが、民間企業では一般的に導入されているものであり、今後その効果についての検証が必要である。現時点での評価は時期尚早と考えられるという意見をいただいているところでございます。

以上が、自己評価に対する主な意見の概要でございます。

また、最後3つ目でございますが、法人全体の評価に関する主な意見といたしまして、業務範囲が非常に広がってきているが、JAXAのリソースは拡大傾向にはなく、範囲を広げ過ぎると組織の役割や目指すものも曖昧になる。何をどこまで担うか、どこから民間に任せるかなど、組織としての方針を明確にして取り組むことが必要。国民に対しても透明性を確保して説明することが求められる、

また、リソースの再配分を含む機動的な体制の見直し、再編を怠らずに進めていただきたい、

また、H3の開発が再度遅れている。ロケットは宇宙開発の要であり、遅れにより様々なプロジェクトが影響を受けている。新技術の開発には困難がつきものであり、多少の遅れはやむを得ないものの、ある程度の目標期間をもって実施することが必要である。早急に問題を解決し、打ち上げ成功へつなげることを期待する、といった御意見をいただいているところでございます。

続きまして、次のページを御覧いただければと思います。

令和3年度におけるJAXAの業務の実績に関する評価の全項目に対するJAXAの自己評定と、部会の御意見の一覧となっております。

先ほど御説明させていただきましたとおり、おおむね自己評定が妥当として、部会において評価をいただいているところがございます。自己評定が妥当と評価いただいた項目においても、部会において様々な御議論があった項目もございまして、御議論の結果として妥当と評価いただいた項目もあるということで御覧いただければと思います。

なお、赤字で書いておりますⅢ. 3. 5、衛星リモートセンシング、それから、Ⅲ. 3. 8、ISSを含む地球低軌道活動、それからⅢ. 6. 3、プロジェクトマネジメント及び安全・信頼性、Ⅵ. 2、人事に関する事項、この4つにつきましては、先ほど御説明させていただきましたとおり、自己評定と異なる意見（案）としてございます。

概要としては以上でございますけれども、3ページ目以降につきまして個別の意見等を取りまとめさせていただいておりますが、大部になりますため、本日この場での御紹介は控えさせていただきたいと思っております。

駆け足で恐縮でございますが、以上で御説明は終わりとなります。

どうぞよろしく願いいたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に関しまして、御質問、御意見などがございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

尾辻先生、お願いします。

【尾辻委員】 御説明、詳細ありがとうございます。

1点確認させていただきたいところがありまして、Ⅲ. 6. 3のプロジェクトマネジメント及び安全・信頼性の自己評定に対する、委員会の評定がAをBと変更するという点の御説明があったところの部分なんですけれども、マネジメント層に対する報告が四半期に1回では少ないという記述があって、これは特に難航しているH3の打ち上げの遅延等に対する、プロジェクトマネジメントの部分に対するコメントであろうとお察しいたします。

民間企業等、様々な、ケース・バイ・ケースで、報告のフィードバックのリードタイムというのはそれぞれあるんだろうと思うんですが、報告の内容が非常に濃ければ、その回数が比較的少なくてもいいということもあろうと思うんですけれども、この報告の内容と、それから回数ということをよく御吟味になられた上での御判断だろうと理解するん

ですけれども、その点だけ1点確認させていただければと思いました。

以上です。

【梅比良会長代理】 梅比良でございます。どうも御意見ありがとうございます。

これも一つの意見なので、四半期に1回では少ないとおっしゃっておられる先生方もおられたという御理解でお願いできればと思います。

全体としてはプロジェクトマネジメントの大きな改革というのは、実はASTRO-Hの事故(2016年3月)を契機とした改革が一番大きかったのですけれども、全体を見させていただいたときに、それに比して、今年度、突出した優れた取組があるかという、今までのことを着実にやってきて問題がないというのを確認しているという格好になっているので、B評価が妥当ではないかという意見でございます。

マネジメントに対して、四半期に1回というのは少ないというのは、民間だったらもう少し迅速に、問題があるときにすぐやっているという考え方もあるので、そうすると早めにもう少し対処できたのではないかという御意見もあって、こういう意見も残させていただいているところでございます。

私からは以上でございますけれども、もしほかに、委員の先生方で、JAXA部会のほうで何かございましたらお願いできればと思います。

【尾辻委員】 尾辻でございます。梅比良先生、どうも御説明ありがとうございます。

よく理解しました。記載の仕方といたしましては、今、このように書いてしまいますと、量が不足というようにだけ読めてしまいますので、量と質と、バランスを取った記述をしていただけると誤解を招くようなことはないかもしれないかなと、ちょっと思いました。御検討いただければ幸いです。

以上です。

【梅比良会長代理】 御指摘ありがとうございます。

確かにこれ、少ないと言い切っていることもあるので、事務局さんと御相談させていただければと思います。よろしいでしょうか。

【尾辻委員】 ありがとうございます。

【小川課長】 事務局でございます。今の御指摘の点、承知いたしました。

【尾家会長】 ありがとうございます。

そのほか何か御意見、御質問ございませんでしょうか。

篠永先生お願いします。

【篠永専門委員】 篠永ですけれども、補足させていただきます。

JAXAではマネジメントに対する報告というのが、令和3年度になって初めて、四半期に1回理事長まで上げるということを高く評価したいと、そういった意見で説明されていました。

それに対して、民間企業では3か月とか1か月とか、又は臨時に、重大な案件があった場合にはそういったことはやっているということで、それをもってシステムの顕著な改善であるというのはちょっとどうかという意見があったということで、そういった文書になっているということを補足させていただきます。

【尾家会長】 ありがとうございます。尾辻先生、よろしいですか。

【尾辻委員】 御説明ありがとうございます。

そういった意味では、前回初めてエグゼクティブレベルまで報告を上げるというシステムを、マネジメント上で導入したことはポジティブな評価をお受けになっておられるんだろーと思いますので、そういう背景も含めて、若干、ネガティブな雰囲気強く出ているような感じを受けるのは私だけであればいいんですけれども、そういう意味で、量と質という意味でバランスよく記載していただければ。B評定は予定どおり、きちっと事業推進がなされているという評価でございますので、そのように検討いただければありがたいと思いました。

以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。また、事務局で御検討いただければと思います。

そのほか何か御質問、御意見ございませんでしょうか。いかがでしょうか。

では梅比良先生、どうも取りまとめありがとうございます。NICTと共通しているなと思ったところは、例えばISSが過去最多の件数を達しているけれども、その質の評価が必要ですねという御指摘に関しては、NICTもセキュリティに関する人材育成、非常に活発に行っているところなんです、その成果などの評価が必要になってきているんじゃないかという御意見があります。

恐らく両法人とも、活動としては非常に活発になさっていて、規模感は非常にあるという理解だと思うんですが、ここまでずっとやってきたら質の評価が欲しいですねとなっているのかなと思います。

ただ、この質の評価ということについて今までなかなか手が出せなかったということは、その評価が難しいということなんですか。この辺り、梅比良先生、ちょっと教え

ていただけますか。

【梅比良会長代理】 梅比良でございます。御意見ありがとうございます。

多分、社会実装という話をしたときに、いわゆる国立研究開発法人がどこまでやるのかというところが一番難しく、最後のところはやはりビジネスベースで、産業界が頑張ってもらおうと。そのところまでどうやって持っていくかという話になってくるんだと思うんですね。

I S Sの話について言えば、今まで研究開発とかということで、あるいは宇宙活動ということで、I S Sの日本実験棟「きぼう」での実験とか、I S Sの船長をやるとか、いろいろなイベントがあって、これ、ニュースとしてはすごくアトラクティブで、日本頑張っているなという感じがあって、これが国際的に評価されているというのもあるので、これ自体の話はそれとしてあると思うのです。最後は、ここに書いてあるように地球低軌道活動を最後に産業にどのように結び付けていくのかというのがあって、皆さん御承知の、年間400億円もの大きなお金を使ってやっていることもあって、そろそろこのI S S、「きぼう」を2025年以降どうするんだという話も出てきているところになってきているので、そろそろ最後の産業利用みたいな話というのはどういうことができるのか。

今までトライアルをいろいろやっておられて、数は結構、今回は本当にたくさん数が出ましたと言っておられるんですけども、質的にと言っているのは、例えば経済規模はどうなのか、いわゆる実費はもらっているけれども、そこに留まっていて、今後の見通しがなかなか評価しづらい段階になってきているんだと思うんです。

ですので、そろそろそういった将来に向けて、ビジネスベースで本当にうまくいくのかとかということをやっていないといけないんじゃないかという意見が結構多くて、このような評価になってきているところです。

なかなかこのI S Sの話というのはお金も大きいし、じゃあ最後にどこまでそういうビジネスが生まれるのかとなると、そろそろそういうことも考えた活動というのが必要ではないかということで、なかなか言い難いお話なんですけれども、このような評価になっております。

【尾家会長】 ありがとうございます。

御挨拶の中で田原局長が御指摘のとおり、この審議会は成果の最大化ですとか、P D C Aを適切に回すことに対して寄与していくということだと思っておりますが、今御指摘の評価の難しさもあるでしょうけれども、こちらとしてはメッセージとして、そういうのも重

要だと伝えていきたいというように理解しました。

【梅比良会長代理】 どうもありがとうございます。そのとおりでございます。要するに数だけじゃなくて、そろそろそういうことも考えていただきたいというメッセージです。

【尾家会長】 ですから、向こうにボールが投げられたので、検討していただく必要が出てくるかなと。ありがとうございました。

もう1点、ここにまさにありますけれども、法人全体評価に関することで、業務範囲が非常に広がっているという話はNICTも同様でして、恐らく両法人が極めて特徴のある法人で、それに対する期待も大きく、役割もどんどん増えてきているように感じています。そういった中で、やるべきことは増えていくけれどもリソースは有限というんですね、そんなに急に大きくならない中で、両法人がミッションをこなしていこうとされているように思っています。

この辺り、すぐにどのようにすればいいか、難しいところがあるんですが、このようにリソースの再配分というところで行いつつも、もし本当に両法人に対する役割が大きくなっていくのであれば基本的な見直しも必要なかなとも感じておりますが、この辺り、そうは言いましても予算の問題もあるでしょうから、恐らくこの審議会としてはこのように、両法人とも大きな期待を担ってやっていращやるということで、これが持続的に機能していくためには考えていかなければいけないことがあるなど、皆さんお感じになったのかなと思うんですが、この辺り、梅比良先生、いかがですかね。

【梅比良会長代理】 どうも御意見ありがとうございます。

JAXAは、以前はいわゆる技術の研究開発がメインだというのが、前回の中長期のときに、いや、やはり社会実装にシフトしていくんだと、そちらのほうにかなり重きを置いていくんだという格好でかじを切って、すごく、今まで頑張ってきておられるなと思います。

そういうところは非常に高く評価されていると思うんですけれども、結局そうしますと、いわゆる社会実装とかそれに関連する活動というのはものすごく広くて、それにかなりリソースを取られたような格好にもなってきていて、例えばリモートセンシングのところもALOS-2は非常にいろいろな使い方がされていて、いろいろなニュースで、こういう写真を撮ったりというのがマスコミにも載るぐらい注目されているんだと思うんですけれども、そういったものを実際に運用していくところまでJAXAがやるのかと

いうところですね。そういうことを、何というんですかね、民間に任せるものはもう任せると。そういう意味ではISSは金額が大きいのでそう簡単に民間にすぐ任せるみたいな話にはならないと思うんですけども、一方でやっぱりH-IIAみたいな格好にどんどん動かしていかないと、JAXAがパンクしてしまうというのを一番心配しています。もっとJAXAが本来やるべきところを頑張ってもらいたい。それ以外のところ、できるところはなるべく民間に移すようなことをやっていかないといけないのではないかと、じゃあそれは何なんですかというところをそろそろ考えてほしいというメッセージです。

我々のほうからこうしなさい、ああしなさいということはなかなか申し上げられませんが、そういう状況にあるので、ぜひ中長期的に大きなグランドデザインをやっていただけないかというのが、このポツのメッセージでございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。

大変重要な御指摘だと思います。この辺りまた事務局でも、この点、受け止めていただければと思います。

皆様何か、御質問、御意見ございませんか。いかがでしょう。

それぞれの部会におきましてはもう十分に御審議されていらっしゃるって、部会の中では御理解が進んでいるかと思うんですが、異なった部会の委員の方々が御覧になって、御質問、御意見ありましたら、御遠慮なくお願いします。よろしいですか。

では、どうもありがとうございます。

それでは、御意見いただきましたので、JAXAの令和3年度の業務実績評価に対する意見につきましては、本日の審議結果を踏まえて取りまとめることとさせていただきたいと思っております。

具体的な修正内容に関しましては、別途事務局において調整いただいた後、会長であります私に一任させていただきたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、そのように進めることといたします。

また、総務省におきましては、関係府省との調整等を進めていただくようお願いいたします。

なお、NICT及びJAXAの最終的な評価結果に関しましては、後日、事務局から委員の皆様へ御連絡させていただきたいと存じます。

(3) その他

【尾家会長】 それでは最後の議事となりますが、その他、全体を通しまして何かございますでしょうか。これ、3番目の議題って、何か事務局ありましたですかね。その他というのは。

【藪井課長補佐】 事務局でございます。いえ、本日につきましては、その他というのは何かありましたらと思って準備していたんですけども、今、議論がまとまりましたので、追加としては特にはないということになります。

【尾家会長】 ありがとうございます、その他、全体を通して何か皆様ございますでしょうか。

両部会でもう十分御審議いただいた内容をここに御説明いただきましたので、スムーズに進行できたと思いますが、大きな課題としましては、先ほどのように、両法人の役割なども見直していく必要があるかもしれないという、その辺り、最終報告に載せるというわけではないですが、そういったところも感じられているのかなと感じました。

それでは、事務局からお願いいたします。

【藪井課長補佐】 事務局でございます。長時間にわたる御審議、ありがとうございました。

本日の御審議の結果、取りまとまりました内容は、主務大臣への審議会の御意見として頂戴することとなります。一部修正が入る部分もございますけれども、そちらのほうは改めて、御意見として取りまとめましてお送りさせていただきます。

また今後の予定でございますが、いただきました御意見を基に関係府省とも調整いたしまして、主務大臣評価を行い、今年は8月の下旬をめどに、独立行政法人評価制度委員会に提出するとともに、公表するという流れになっております。

そして同時に、先ほど尾家会長からも御指示いただきましたが、最終的な評価結果として、別途事務局より委員の先生方にも御報告をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

また、もう1点事務連絡でございます。本日議事のほうは全て御裁定いただきましたので、予備として皆様にお時間いただくようお願いしておりました8月8日月曜日につきましては開催しないことといたしますので、御了承いただきますようお願い申し上げます。

また、本日の議事録につきましても、後ほど事務局から皆様方に御確認をお願いさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局からは以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。

閉 会

【尾家会長】 それでは、以上をもちまして、第15回総務省国立研究開発法人審議会を終了いたします。

本日はウェブ形式で、皆様から十分な御意見をいただけていないようでしたら申し訳ないと思いますが、両部会で活発な御審議の結果、このように取りまとめることができました。感謝申し上げます。それでは終わります。どうも、本日もありがとうございました。

(以 上)